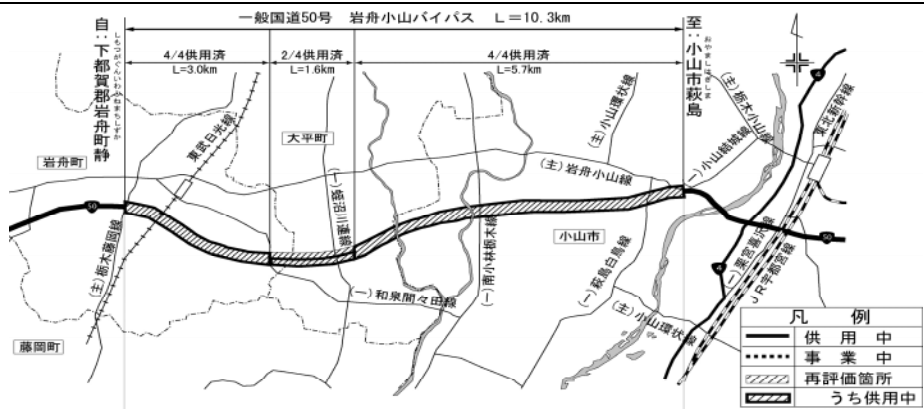


再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：中島威夫

事業名 一般国道50号岩舟小山バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省	関東地方整備局
起終点 自：栃木県下都賀郡岩舟町 静 至：栃木県小山市 萩島	延長		10.3km
事業概要 一般国道50号は、群馬県前橋市を起点として、桐生市、足利市、小山市等の主要都市を通過し茨城県水戸市に至る延長約152kmの主要幹線道路である。 岩舟小山バイパスは、その一部を形成し北関東地域の交通基盤の強化や開発計画等地域振興の支援を目的に進めている4車線のバイパス事業である。			
S49年度事業化		S45年度都市計画決定	
S50年度用地着手		S54年度工事着手	
全体事業費	約300億円	事業進捗率	87%
計画交通量	29,700台/日	供用済延長	10.3km
費用対効果分析結果 (※1)	B/C (事業全体) 3.1 (残事業) 4.8	総費用 (残事業/事業全体) 77/118億円 (事業費：27/68億円 維持管理費：50/50億円)	総便益 (残事業/事業全体) 371/371億円 (走行時間短縮便益：361/361億円 走行費用減少便益：7/7億円 交通事故減少便益：2/2億円)
基準年		平成15年	
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（新幹線停車駅である小山駅へのアクセス向上が見込まれる。） ・国土・地域ネットワークの構築（岩舟町から地方生活圏中心都市である小山市までのアクセス向上が見込まれる） 他5項目に該当			
関係する地方公共団体等の意見 岩舟小山バイパスは、地域交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、佐野市をはじめとする関係7市5町の首長で構成される国道50号バイパス建設促進期成同盟会より早期整備の要望（平成15年7月17日）を受けている。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 沿道に工業団地、新都市開発整備事業が立地し、当該道路の2車線区間における交通渋滞はますます深刻化している。			
事業の進捗状況、残事業の内容等 順次整備を進めており、現在までに延長8.7kmの4車線供用、残る区間は暫定供用している。			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 一般国道50号における栃木県内唯一の2車線区間である大平高架橋の整備を促進し、平成16年度に全線4車線供用予定である。			
施設の構造や工法の変更等 コスト縮減に資する調達方法の採用や新技術の積極的活用など、コスト縮減に努めるとともに工期短縮を図り、併せて整備効果の早期実現を図る。			
対応方針		事業継続	
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。			
事業概要図			



(※1) 事業全体の費用便益分析は、既供用区間を除く区間を対象とした費用便益分析を行っている。

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。